

人権情報プラザ 新着図書一覧（令和7年12月登録分）



どなたでもご利用できます。
お気軽にお立ち寄りください。（県庁舍別館1階）

番号	書籍名	出版社	著者	出版年	分野	あらすじ
1	ともにいきるための「世界ルール」(絵本)	解放出版社	阿久澤 麻理子 外 文/ナイダ・マッヅエンガ 絵	2025	人権総論	世界から差別をなくすためにつくられた「世界ルール」(=人種差別撤廃条約)を、子ども向けにわかりやすく解説した絵本です。
2	SISTER“FOOT”EMPATHY	集英社	ブレイディみかこ	2025	人権総論	著者は、『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』で、第2回本屋大賞 ノンフィクション本大賞を受賞。もっと自由になるためのシスターフッド論。「他者の靴を履く足」を鍛えることこそ、自分自身の人生を歩む原動力となる！これからの世界とわたしたちを考えるためのエンパワメント・エッセイ。無駄に分断されず、共に地べたに足をつけてつながる。前に進む力が湧く39の視点。
3	地方女子たちの選択	桂書房	上野千鶴子 外	2025	女性	さまざまな選択の結果、富山県に暮らす14人の女性の生活史を通じ「地方女子」たちの選択とその背景を丹念にほぐし、通底する家父長制や性別役割分担意識、はたまた文化資本、教育などの違いをあぶりだしている。
4	その“男らしさ”はどこからきたの？—広告で読み解く「デキる男」の現在地	朝日新聞出版	小林 美香	2025	女性	著者は、国内外の各種学校／機関、企業で写真やジェンダー表象に関するレクチャー、ワークショップ、研修講座、展覧会を企画するほか、執筆や翻訳を行う。スース／大股／腹筋／白人男性／芸人／生涯現役…街中の広告に潜む「男らしさ」の背景を読み解く。缶コーヒー広告のスース姿と背景の高層ビル群、「出世」や「モテ」と結びつけられるヒゲ脱毛、決まって命令口調で真正面から睨み付ける本田圭佑…その「男らしさ」のイメージはどこからやってきて、男性のみならず見る者の価値観に影響を与えてきたのか。これまで「なかつたこと」にされてきた男性表象の問題点を炙り出すとともに、最終章では教育・医療に携わる3人の専門家と「これからの男性性」を語り合う。
5	男女賃金格差の経済学	日経BP	大湾 秀雄	2025	女性	男女の賃金の平均を単純に比較するだけでは、実態も改善度も分からず。日本企業の実情や男女の行動特性までふまえ、眞の格差をいかに測り、改善するか、最新の経済学の実装の仕方を解説する。人事の経済学の第一人者で、企業と共同研究し実態を分析してきた著者が、経済学研究で明らかになった様々な見解や手法を紹介し、企業の取り組みに活かしやすいように解説する。
6	なぜ男女格差はなくならないのか	講談社	田中 世紀	2025	女性	日本社会に根強く残る男女間の賃金格差。その背後にあったのは、「男性らしさ／女性らしさ」という呪縛だった——。性別をめぐる社会の理不尽に問いかける一冊。
7	成瀬は都を駆け抜ける	新潮社	宮島未奈	2025	こども	成瀬シリーズ堂々完結!! 唯一無二の主人公が、今度は京都を駆け巡る！ 膳所高校を卒業し、晴れて京大生となった成瀬あかり。一世一代の恋に破れた同級生、「達磨研究会」なる謎のサークル、簿記YouTuber、娘とともに地元テレビの取材を受ける母、憧れの人に一途に恋焦がれる男子大学生……。千年の都を舞台に、ますます個性豊かな面々が成瀬あかり史に名を刻む中、幼馴染の島崎のものには成瀬から突然速達が届いて……。全6篇、最高の主人公に訪れる大団円を見届けよ！
8	子育て罰—「親子に冷たい日本」を変えるには	光文社	末富 芳/桜井 啓太	2021	こども	少子高齢化が加速する日本において、出生数の回復は急務であるにもかかわらず、日本は諸先進国に比して家族関連社会支出が極端に少ない。子育て世帯に福徳的「ボーナス」を与えるどころか、金銭的にも社会的にも「罰」を与える政策により、日本の少子化対策は完全に失敗している。子育てを「自己責任」とみなし、親子を苦しめる社会・政治の制度・慣行を、本書では「子育て罰」と定義。九月入学問題や高所得世帯の児童手当廃止、「こども序」の政治利用等に鋭く切り込んできた教育学者の末富芳氏が、日本から「子育て罰」をなくし、再び「親子にやさしい国」にするための方策を論じる。学術用語「child penalty」から「子育て罰」という訛語を生んだ社会福祉学者・桜井啓太氏の論考、末富・桜井両氏による対談も収録。
9	愛がぼろぼろ	中央公論新社	爪 切男	2025	こども	僕が住む町の外れに、変わり者の太ったおじさんが住んでいる。僕がふざけて「ゴブリン」なんてあだ名を付けたせいで、学校では不審者扱いされるようになってしまった。悪いことをしたと思ってる。だってゴブリンだけなんだ。僕の頭を撫でてくれたのは、お母さんは小さい頃に家を出て行ったし、お父さんは毎日僕を殴るから—愛を与えられなかつた少年が、自分だけの愛を見つけるまで。
10	子育て中のネットメディア研究者が教えるスマホを持たせる前に親子で読む本	時事通信出版局	山口 真一	2025	こども	著者は、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授。また、様々な政府有識者会議委員を務める。被害者にも加害者にもならないために！ 親子で考えたい「人類総メディア時代」のネットの歩き方

11	胚培養士ミズイロ〈9〉	小学館	おかげまし 里	2025	医療	第29回手塚治虫文化賞マンガ大賞、最終候補ノミネート！漫画賞続々入賞！重版止まらず！！！ 第9巻は、早発閉経編と保険適用の裏側・官僚編を収録。
12	AIに看取られる日—2035年の「医療と介護」	朝日新聞出版	奥 真也	2025	医療	著者は、東京科学大学医療・創薬イノベーション教育開発機構特任教授。 AI医師は患者の「ズキズキ痛む」と「ジンジン痛む」を判別できるのか？「認知症・がん治療薬の開発」AIが誤診したら誰が責任をとるのか？「介護AIは患者に寄り添えるか」—最新の研究成果から、医療・介護とAIの将来を精緻に予測する。
13	禁断の中国史	幻冬舎	百田 尚樹	2025	外国人	著者は、2013年に『海賊とよばれた男』で、第十回本屋大賞を受賞。 「この本を読めば、読者の皆さんは“中国”と“中国人”的本質を知ることになるでしょう。あなたの中の誤った中国像が音を立て崩れていくかもしれません。しかしこれが中国の眞の姿なのです」。易姓革命のたびに起る大虐殺、残酷すぎる刑罰、男性器を切除される宦官制度—。ベストセラー作家が中国四千年のタブーを全て暴く、衝撃の問題作！
14	あたらしい表現活動と法（第二版）	武蔵野美術大学出版局	志田 陽子 【編著】/比良友佳理【著】	2025	表現・報道	著者は、武蔵野美術大学造形学部教授、博士（法学）。 法によってできること、法によって支えられているものの知識をもつことが、自由な表現活動とその表現を通して多様な他者や社会と、より豊かな関係を築く基盤となる。「表現の自由」とは何かを問いつつ、知的財産法、著作権法を中心に表現者としてまた享受者として知っておくべき表現活動にかかる法やルールを学ぶ入門書。豊富な判例を「example」で、身近な問題を「column」で考察する。
15	見えない妻聴こえない夫 ふたつの世界で目指す金メダル	中央公論新社	篠原通良	2025	障がい者	目が見えない妻・高田千明と耳が聴こえない夫・高田裕士。ともにプロの陸上選手の夫婦は、息子に金メダルを掛けるため、バラリンピック、デフリンピックで闘い続ける。感動のノンフィクション。
16	加害者家族として生きて—松本智津夫の娘であること	創出版	松本 麗華	2025	犯罪被害者	幼少期をオウム真理教で過ごし、小学校も卒業できない元教祖の娘は、努力を重ね3つの大学に合格。しかし、いずれの大学からも入学を拒否された。
17	爆弾犯の娘	ブックマン社	梶原 阿貴	2025	犯罪被害者	映画『夜明けまでバス停で』『「桐島です」』の脚本家が明かす、傷だらけで愛おしい人生。 「黙っていたけど、あなたの父さんは、役者でクリスマスツリー爆弾事件の犯人なの。あなたが生まれる前のこと。それからずっと、十四年も隠れて暮らしてゐる」「見つかったらどうなるの？」 「逮捕されちゃう」左翼、革命、学生運動、自己批判、人民の子…父は、何を守りたかったのだろう？
18	ソーシャルメディア解体全書—フェイクニュース・ネット炎上・情報の偏り	勁草書房	山口 真一	2022	その他の人権	著者は、国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授。また、様々な政府有識者会議委員を務める。 誰もが発信者となりうる「人類総メディア時代」必携！ソーシャルメディアの実態をデータと事例で徹底分析。必須ワードから国内外の対策の最新動向までを網羅。インターネット悲観・楽観論を超えて、豊かな情報社会を築くために。
19	月を見に行こうよ	集英社	李 琴峰	2025	その他	著者は、『彼岸花が咲く島』で第一六五回芥川龍之介賞を受賞。 アイオワ大学の歴史ある国際創作プログラムに集まつた世界各国の作家たち。背景の異なる創作者同士の交流、作品に対する姿勢を描いた、書く者たちの物語。